

2022年11月22日発行

22-47号

（http://www.jremnant.com/）

現場から（最近のニュースから）

**生きがい**

「生きがい（Ikigai）」という日本生まれのコンセプトが世界に広まっているそうです。イギリスの企業家マーク・ウィンが2014年に編み出した４つの円の図は、ネット上で拡散され「生きがいのベン図」として、多くの人が言及しています。ベン図の内容は、「あなたの好きなこと」「あなたの得意なこと」「世界が求めていること」「あなたがお金をもらえること」という円がそれぞれ重なっている部分があり、そのすべての円の共通部分が「生きがい」だということです。

海外では、この「Ikigai」というコンセプトにインスピレーションを受けて、会社を企業する人もいるということですが、当の日本人は「生きがい」についての深く考えていないのではないかと、記事には書いてあります。たぶん、この単語を使うとしたら、家族と一緒に過ごすとか、趣味を楽しむといった「ささやかな喜び」の文脈においてだろうと、文教大学の心理学者、神田信彦さんは指摘しているということです。脳科学者の茂木健一郎さんは、生きがいは「日本文化に深く浸透している」と主張しているということですが、実際には、日本語の本来の意味ではないものが世界に広まっているのではないかと、記事にはあります。なぜなら、日本の現状を見ると、「健康な長寿の人々の国」という評判にもかかわらず、日本はユートピアにはほど遠く、富裕国から成る「G7」のなかで、日本の自殺率は最も高いからだということです。「過労死」の事例は多く、過酷な企業文化は、政府が対策を立てているのにも関わらず、あまり良くなっていません。おそらく日本という国もまた、もう少々「生きがい」がほしいところなのだろうと、記事は結んでありました。（11月20日Courrier Japon＜日本人がさほど意識していない「イキガイ」が、なぜ海外で大ウケしているのか＞より）

日本は豊かになり、発展しました。しかし、毎日、聞こえてくるニュースは、昔と同じような事件事故です。なにが悪いのかと、あれこれ探して、政治家が悪い、経済政策が悪い、教育の問題だ、医療制度だ･･･などと、ありとあらゆる対策を立てるのですが、問題は消えないどころか、どんどん複雑になり、良くなりません。新しいことが開発されたら、それに伴って、同じように問題が繰り返します。人間は、どうしようもなく、なにをどうしても変わらないということに、そろそろ気づくべきではないでしょうか。

どんなに生きがいを持っても、その生きがいで変わるのは、臨時的な外側だけです。目先の問題が解決したらそれが幸せだいう考えではなく、永遠から永遠にまでの絶対の真理を知り、その中にいる自分であること、また、その自分に生きる理由、役割があることを知るべきです。生きがいのベン図では、絶対に発見できない「まことの生きがい」について、いっしょに考えてみませんか。

救いの道

だれでも幸せになって、うまくいきたいのに、なぜ人生がこんなにも苦しくてつらいのでしょうか。

予期せぬ事故にあい、やることなすこと、すべてうまくいかず、会社ではやりがいどころか、仕事と人に疲れるばかりです。学校は、もはやいじめの天国になりつつあります。家庭内は冷たい風が吹き、一つ屋根の下でばらばらになり、実際に崩壊しているところも少なくありません。そのうち体は病気になり、心も病んでしまい、眠れない夜が続きます。お酒や薬に頼り、ギャンブルや快楽に走ってみても答えはありません。わらにもすがる思いで占いをして、おふだやお守りをつけてみますが、解けそうにもなく、どんどんひどくなるだけです。

ときには、表では他人がうらやむほどの成功をおさめたのに、裏は穴が開いてもれていくし、隠れた問題でなげき、ため息をつきながら人生のむなしさを感じています。胸にはぽっかりと穴が開いて、埋められません。とても憂うつになって、時々、自殺の衝動にかられます。幻聴や幻覚に悩まされるときもあります。

なぜこうなったのでしょうか。

それは、人が神様を離れているからです。魚が水を離れ、木は土から根を放り出すと枯れて苦しみ死んでいきます。人は神様に会って神様とともにいるべきたましいを持つ存在です(創世記1:27)。ですから、神様と出会う時、すべての問題が解決され、新しい人生が始まります。しかし、人は罪を犯して神様を離れてしまい、二度と神様に会うことができなくなりました。そのときから、目には見えない暗やみの力が、人を運命の力に閉じ込めて、苦しめて滅ぼしているのです。それで、どんなに暴れても抜け出すことができません。どんどん疲れはてて倒れるだけなのです。

神様は苦しみの中にいる人を愛し、この運命の泥沼から抜け出して、神様に出会うことができる道を開いてくださいました。その道がイエス･キリストです。イエス･キリストが罪人の私たちの身代わりとなって、十字架を背負い、すべての罪を赦してくださり(ローマ5:8)、私たちを苦しめていた暗やみと呪いの勢力を完全に打ち砕いて勝利なさいました(Ⅰヨハネ3:8)。そして言われます。「わたしは道であり真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれ一人として神に会うことはできません」(ヨハネ14:6)イエス･キリストは神様に会う道となりました。「疲れて重荷を負っている人はわたしのところへ来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」(マタイ11:28)と私たちを招いておられます。

もうこれ以上、苦しみの人生にとどまっている理由はありません。道であるイエス･キリストを信じることで、神様に会うことができます。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです」「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」だれでもイエス･キリストを救い主として信じ、心に迎え入れれば救われます。下の「受け入れのお祈り」を通してイエス・キリストを心に迎えることができます。

「愛の神様、神様の驚くべき愛と、救いの計画を感謝します。今、私は罪人であることを

認めて、悔い改めます。私の心の扉を開いて、今、イエス・キリストを私の救い主、私の

神様として受け入れます。私の罪を赦してくださり、私を救ってくださったことを感謝

いたします。これからは、神様のみこころに従って生きる者にしてください。イエス・

キリストの御名によってお祈りします。アーメン」

相談のある方は、いつでも連絡ください